

あなたのCO2排出量はどんだけ～

人は生きてどれほどの二酸化炭素を吐き出すのか、ふと思ったのですが・・・調べるとなかなか難しい。資料やデータを手集らしてもらったのですが、

①燃料によりCO2の排出量が違い

それぞれに係数として定めてある

灯油の場合 2,362kg/kI
人間が食べる食物エネルギーの場合 0.4g/1kcal

②呼吸するだけならば、必要な食物エネルギーは2,000kcal(100wの電球を1個24時間つけたと同じ熱量)だそうです。

1日では 0.4g/1kcal × 2,000kcal = 800g
(これを体積に直すと400l)

③樹木がCO2を吸収しますね。

昆虫公園のデータでは1本当たり0.22人分のCO2を吸収するようです。一人生きるのに5本の木が必要で、でっかい人は大木が必要になるのかな・・・

呼吸するだけで5本というのはきついですね。生活するには電気、ガス、様々なエネルギーが必要で、自動車にも乗ります。産業・運輸・業務全体となると地球の温暖化問題は果たして解決できるのだろうかと思いが遠くなりそうです。

07年度「ニッキン賞」受賞記念
「ごうぎんチャレンジドまつえ」展

2008
5月23日(金)～5月26日(月)

10:00am～6:00pm
(26日 4:00pmまで)

島根県立美術館
ギャラリー3室
松江市袖師町1-5

山陰合同銀行は、知的障害のある方が専門的に就労できる事業所「ごうぎんチャレンジドまつえ」を07年9月に開設し、08年4月現在で15名の職員を雇用しています。



また、知的障害者雇用のノウハウを公開し、地域におけるセーフティネットのモデルケースとして、他の企業へ障害者雇用を普及させる活動も行っています。

この取り組みが評価され、当行が日本金融通協の07年度「ニッキン賞」に選ばれました。受賞を記念し、職員が当行PR品に利用するために描いてきた、キミ子方式の水彩画作品展を開催いたします。

お問い合わせ先
「ごうぎんチャレンジドまつえ」
松江市北堀町180 TEL 0852-24-5339

千鳥福祉会
サマーフェスタ2008

お知らせとお願い

お知らせ

日時 平成20年7月20日(日)
16:00～21:00

オープニング 片江荒神太鼓
お祭りスタッフと参加者による竹太鼓

ステージ 利用者さんによる活動の発表
平成ニュータウン子ども会の方による発表
六子とグライダーによるコラボレーション
踊り屋「舞夢」によるよさこい
銀の会による踊り、ピンゴゲーム

縁日 巨大迷路、金魚すくい、ストラックアウトなど
露店 飲み物、焼きそばなど盛りだくさん

お願い

- 地域の方からボランティアの支援がいただければ喜ばれます。
- ご家庭にある不用品(衣服・食べ物以外)をフリーマーケットにご提供いただければ喜ばれます。

(実行委員会)



ワークショップ・人形劇

L.C.C.ういんぐの地域活動センター事業は、土曜日と祝日も行っています。

4月19日(土)はやすらぎ会館で「みるくの会」のみなさんに人形劇をしていただきました。

人気の絵本「ともだちや」の上演です。子供さん達を呼んで楽しい時間が持てました。年内にもう一回やります。たくさんの方のご参加をお待ちしております。



パタカラ講演会のお知らせ

演題 あきらめないでやってみよう
口腔筋トレーニング
～ダウン症、自閉症、てんかん、痴呆～

講師 歯学博士 秋広良昭先生

日時 平成20年7月31日(木) 19:00～

場所 持田公民館の横 「やすらぎ会館」

平成19年度、苦情を1件いただきました。改善に努めて参ります。

Leaving Care News



-No.109-

〒690-0814 松江市東持田町1415
社会福祉法人千鳥福祉会
代表(TEL 24-8820 FAX 24-8825)
知的障害者更生施設 持田寮
就労移行支援事業所 ワークセンターフレンド
多機能事業所 L.C.C.ういんぐ
共同生活援助・介護事業所
千鳥福祉会ケアセンター大空

2008.5.1

新しい年度を迎えるにあたって

千鳥福祉会理事長 山本昌子

千鳥福祉会は平成3年に設立されましたので、今年には18年目を迎えたこととなります。障害がある方の暮らしが「もっと普通に!」「もっと自由に!」「もっと豊かに!」「もっと希望が持てるように!」と取り組んできました。気がつけばもう18年目・・・いや、まだ18年目・・・これは何かがなしたかということに重ねて考えなければならぬと思いますので、若い方たちのことを拝借すれば「微妙」です。

平成7年にグループホームを始めました。当時は入所施設からグループホームに移ることに對してご家族の理解をいただくのは無理でした。それでも毎年1ホーム追加を目標に増やし続けたことが、今、入所の30人を越える42人のホーム利用者を生み出したことにつながっています。続けることの大変さは獲得した喜びに比べれば実に微々たるものだと思ひ感じています。なぜなら、一方で逆の体験もしてきたからです。これも平成6年からの取り組みですが、福祉工場を目指して実習を重ねていましたが認可に至らず、8人の利用者を雇用する小さな商店を作りました。ところが、周囲の理解が得られず断念し、全

員が福祉就労に逆戻りをせざるを得なかった辛い過去があります。彼らの収入は突然激減したわけですからその責任は重く、途中でやめるようなら始めてはいけなかったと思います。

あれから10年経って、理念的には当時目指してきたものの風が吹いてきた感もあります。ただ、周囲の事情が変化しています。日本の経済は先の見えない構造的な不況にあえいでいます。暮らしの基盤に関わるエネルギー危機もあります。一層不安定な企業環境の中で、障がい者雇用が厳しいことは当然です。そんな中で、この4月から通所授産施設ワークセンターフレンドがL.C.C.ういんぐに続いて移行します。就職したいという方がいる限り「挑戦する機会は均等に提供されるべきだ」という想いで、フレンドは就労移行支援事業所にしました。企業実習、更には就労と結果を出さねばならず、役職員心を一つにして努力したいと考えています。

そして、千鳥福祉会の「夢をもう一度」の挑戦に多くの皆様からのご支援をお願いする次第であります。

「ごうぎんチャレンジドまつえ」

山陰合同銀行 ごうぎんチャレンジドまつえ
所長 宮本立史

「ごうぎんチャレンジドまつえ」の取り組みについて

平成19年9月、山陰合同銀行は社会貢献活動の一環として、知的障害のある方が専門的に就労する事業所「ごうぎんチャレンジドまつえ」を開設しました。現在15名の知的障害のある方を雇用し、平成20年度末までに20名に雇用を拡大する計画です。

現在「ごうぎんチャレンジドまつえ」では、「当行PR品(エコバック・通帳ケース)の制作業務」と、ゴム印押しや名刺印刷等の「事務業務」を行っています。開設後8ヶ月ではありますが、特に知的障害のある方の芸術面の才能(絵画)を活かしたPR品製作は、お客様から高い評価をいただいております。目覚ましい能力の発揮と、自立支援への手応えを感じています。

私たちは、この事業を慈善事業ではなく、障害者の自立の芽を支え育てる活動と考え、企業が継続可能な障害者支援のモデルケースとして、地域全体に広めていきたいと考えています。

障害者雇用促進法の改正により今後益々企業の障害者雇用ニーズは高まることが予想されています。当行はこうしたニーズの把握にも努め、企業経営者の方々に直接当行のノウハウを提供していくことで、一社でも多くの企業が、障害者雇用に取り組めるよう、積極的に支援して参ります。

美穂さんの作品



安部美穂さんの就労状況について

美穂さんには、平成19年12月から勤務していただいています。これまで無遅刻無欠勤で、まじめな勤務振りは職員の模範となり、本当に頼もしく感じています。

そして、採用面接の際に感じられた絵の才能は見事に開花し、次々とすばらしい作品を生み出しています。また、事務業務も堅確かつスピーディで貴重な戦力となっています。

来る5月23日(金)～26日(月)まで県立美術館におきまして、「ごうぎんチャレンジドまつえ」の作品展を行います。美穂さんの描かれた原画や製作したPR品を展示いたしますので、ぜひ皆様お問い合わせの上お越しくださいませ。

就職しました

安部美穂

黒いくつとじょうとうの上着を着て、到着するとあいさつをしたあと、せいふくを着る。帰りが近づくとういんぐをして終礼をする。

日直が決まっているので、お昼にお茶が飲める。仕事は絵画制作もある。午後は事務作業で印かん押しが主な仕事です。PR品制作はエコバックの手紙入れとたたみと通帳ケースの組み立てなどをします。



～知的に障害がある人を雇用して～



ダイソー&アオヤマ
100YENPLAZA 松江店

私は、ダイソー松江店で店長をさせていただいています。この業界に入り、5年。店長になってからというもの4年以上の歳月が流れました。この4年間一番苦労したのが人事。意識を持って働いてくれる人材にめぐり合うのは珍しいことです。

そこへ昨年の夏、福田さんが当社へ入社希望との話が来ました。当初は「障害者採用」は避けたいというより考えにもありませんでした。1ヶ月ほど考えた末、チャレンジの意味で採用するまでに至ったわけですが、採用してみると、本人の意識は高く、常に一生懸命さが伺われ、店長としてではなく人間として心打たれるものがありました。ジョブコーチ・ハローワークの方々の支えがあったかもしれない。企業としてメリットがあったかもしれない。半年が経過した今も松江店で業務をこなしております。

現在の福田さんの業務は主に店内外の清掃、設備清掃が中心です。継続して同じ業務を毎日変わらずこなしてくれるという意味では、企業として助かりますしものすごく頼りになります。今後の課題としては、仕事に対するマナーリ化や自分中心の行動を優先しないこと。また、これは健常者も同じですが、慣れてくれば怠惰になる。時間をかけて教育していかなければならないようです。

仕事場では、一緒に共存していく一員、いわば仕事も生活のうちなのでモチベーションに波があります。

いろいろな意味でこの半年間大変でしたが、今後も松江店のスタッフとして努力して欲しいと願っています。

共同生活援助・介護事業所便り

千鳥福祉会が運営するホームは18歳から70歳までの幅広い年齢層で、現在42名いらっしゃいます。ホームは8箇所ありますが、国庫補助金や家主さんのご好意でケアホームは快適な生活環境に改修していただきました。若干の空きがありますので、ご相談に乗ります。よろしく願います。

このたび、安部さん、福田さんの就職が決まり、ホームから企業に出勤する方が増えました。受け入れてくださった企業様の側にも不安や戸惑いがたくさんあったと思いますが、ご理解とご協力を御願する次第でございます。

いろいろな機会をいただく度に、私達ホームの世話人は、一人ひとりの個性豊かな大切な人生に想いを馳せ、企業様などの一般社会と福祉社会との架け橋となるべく役割を担っていると感じてきました。仕事の内容や対人関係などでくじけそうになったり、思うような賃金が得られなかったり、仲間と離れた寂しい思いをしたり、今後たくさんの方のつらい体験もされることと思いますが、多くの方のお力をいただいで、微力ではありますが支え続けたいと思っています。

これからも温かく見守っていただきますよう、よろしく願います。



持田 寮便り



この春、持田寮から新たに地域での生活に移られた方を紹介します。

お二人とも当法人が運営するケアホームを利用して地域生活をスタートされ、4月から新生活を始めていらっしゃいます。

誰しも生活環境が変わることには不安がつきまとうものです。より自然に地域生活に移行するために、半年間の自活訓練をしていただきました。お二人とも持田寮へ入所される前の在宅での生活体験を活かしつつトレーニングに取り組みされ、戸惑いも少なく予定のプログラムが進みました。

早いもので、1ヶ月が経ちますが、お1人は以前からお出かけ好きでしたので休日にはガイドヘルプを利用してあちこちへ出かけられ、休日の楽しみも増え、ハリのある生活をお送りのようです。もうお1人は、毎日歩いて通所施設へ通われるようになり、作業活動に取り組みされるようになりました。

それぞれに望まれる暮らしの場は様々と思いますが、当たり前のこととして地域での生活体験ができるように支援していくとともに、地域生活も進めていければと考えています。そして、結果としてみなさんの笑顔がたくさん見られるようにできればと考えています。



ケアセンター大空便り



4月1日より軽度な利用者さん3人までは1人のヘルパーで対応できるようになりました。

早速、ヘルパー3人が5名の方を支援するグループ支援の制度を使い、念願であった大阪のジンバイザメのいる海遊館へ行ってきました。

どこまでも続く巨大な水槽に圧倒されながら、「わ～すごいわ！かわいいね！大きいね！」と感嘆。「ここに来たかったんだよね」とみなさんの満足顔にヘルパーも満たされます。

大阪までの旅行は、体験の宝庫でした。長距離バス・車中のお飲み物やビデオのサービス・地下鉄・自動改札・大阪のお好み焼き・目の前に広がる都会の風景・そして開放感、帰りのバスでは缶ビールと弁当で楽しかった一日を重ねて味わいました。このどこにでもある風景はノーマライゼーションそのものです。

そして、何よりもこのサービスを利用された方が「また、明日から頑張ってください、そして、お金を稼いで遠くに行きたい」と希望もって生きてくださることを願っています。

このグループ支援は、個人負担が軽減される分使いやすい制度です。我々サービスを提供する側は、自己満足で終えないように、反省も含めて一層工夫し、一人でも多くの方の願いが叶う計画を立てたいと考えています。



就労移行支援事業
「ワークセンターフレンド」



平成18年3月に通所授産施設として設立しましたので、授産施設としては二年間の運営でした。

回収されてくる山のような洗濯物と格闘する毎日が続きました。自分達で洗ってプレスしたりたたんだりした製品を遠いところでは和名町まで届けます。それでも、みんなで気持ちをあわせて取り組みましたので、思い出してみればすべてが貴重な思い出です。夏祭りも燃えましたし、食事会、ボーリングの後のクリスマス会も楽しかったです。移行するに当たって、就労移行支援事業から就労継続B型の事業に変わった方もありますが、この一年は、利用者さんにとっても職員にとってもいろいろな思い出を心に刻んだかけがえのない一年でした。

フレンドは、就労移行を目指し、企業様のご理解を得て4月から実習が始まりました。利用者さんの仕事への思いはいろいろあります。「早く就職したい」「8時間働けるところに行きたい」「交通の便がいいところに就職したい」「どこに就職していいかわからないので教えて欲しい」「松江・出雲どこでもいいので就職したい」「平成22年には就職したい」「荷物を降ろしたり運んだりするところで働きたい」など、この大切な生の声を実現するように職員も一緒に頑張らねばと思います。



(フレンド利用者
職員一同)

日本財団からの助成を受けました。

このたび、ワークセンターフレンドは就労移行支援事業所として出発するにあたり、日本財団様から授産設備の古いものの更新に助成をいただきました。水洗機、乾燥機、ボイラの機器設備に対して総事業費13,597,500円に対して960万円の助成でした。心からお礼を申し上げます。



自動水洗機：30kgを50kgに更新



乾燥機：乾燥時間が大幅に短縮しました



1トンボイラ
5%効率が上がりました

L.C.C. ういんぐ



L.C.C. ういんぐは、法人内の先陣を切って、前年度から新事業体系に移行し、『生活介護事業』、『就労継続B型支援事業』、『就労移行支援事業』の多機能型事業所としてスタートを切りました。障害程度区分による報酬単価や人員配置基準等の事務量の煩雑さ、工賃倍増計画の流れ、就労目標等、国が定めた自立支援法の中の多くの縛りは福祉サービス提供者にとっては、非常に厳しく大きな課題となっております。また、制度制定後もめまぐるしく変わる中身に対して振り回されている現状にあります。

L.C.C. ういんぐは、今年度より、『就労移行支援事業』をワークセンターフレンドに託し、『生活介護事業』、『就労継続B型支援事業』で、再スタートを切ることとなりました。制度はまだ変わっていく要素を秘めておりますが、利用者の方に安心感をもっていただけるよう向き合っていく事の大切さは変わらず、人の暮らしの中で生活の軸を作り上げる大切な日中生活が、一人ひとりにとっての生きがいや遣り甲斐となり、笑顔や満足感に繋がるサービスが提供できるよう今後も追及していきたいと思っております。

